夕刊
磐城新聞
三月三十日發行
定價 一ヶ月 金五十五錢
發行所 磐城新聞合資社
(日曜祭日翌日休刊)
振替東京一〇八一五九六五番

随筆……春光閑筆
牛久沼の蕭聖芋錢翁
津川生

下

じゅんさいの葉の浮いた鏡のやうな牛久沼に、小舟をうかべてからした話をゆつくり聞きたいと、私はどんなに冀つてゐることだらう。なぜなら『こんどおいでになつたら、あの沼は舟をうかして、一日ゆるりと話をしませう』と云はれた控へ目な細い芋錢氏の聲がいまだに私の耳の底にのこつてゐるのだ

蕭聖芋錢！一本の野の草にも似た、その天眞素朴名利榮達から恬然として、牛久沼の片ほとりの草汁庵にかくれ、興いたれば畫筆を揮つて奇想天外の逸品を生む人、そこに一點の衒氣もない。田園に耕す人を愛し、椿山の淸貧を愛する氏はまた野聖でもある。氏を訪ねる人々は、夏は自慢のじゆんさいと、奥さんが手打の温飩、はるかに陶淵明を偲ばせる御馳走に、心にくい野趣を掬するであらう

去年の夏、私がこの草汁庵を叩いたときは、沼に面した南寄りの縁先に、カンナの花が、くらめく夏の陽をあびて花咲き亂れ、大きな芭蕉の葉かげには、紫陽花の花が匂つてゐた。一鉢縁に置かれたグロキシニアの花越しに、欅やアカシアの繁みを透してみると牛久八景の勝地である。床に『松靜鶴留聲』の一幅が掛けられて、云ふばかりなき閑寂の氣がシーンとあたりを領してゐたのを思ひ出す何ともいへぬ人格の芬香が

雨やんでおくれ
佐々木建之

いやな
いやな雨
早く
やんで
おくれ
お山の
からす
泣き
泣き
行つた

お宮の
トリ井
しよんぼり
立つてる
友達
誰も
あそびに
來ない
いやな
いやな雨
早く
やんで
おくれ

一

3月31日
△明治天皇、尾張三河に於ける最初の大演習に豪雨中を親しく御統監遊ばさる（明治二三）△シヤムにはじめて我公使館が設く（明治三〇）△アメリカ南北戰爭掉尾の激戰（一、八六五）△この日誕生の人―哲學者デカルト（一、五九六）△作曲家ハイドン（一、七三二）△文豪ゴーゴリ（一、八〇八）△化學者ブンゼン（一、八一一）

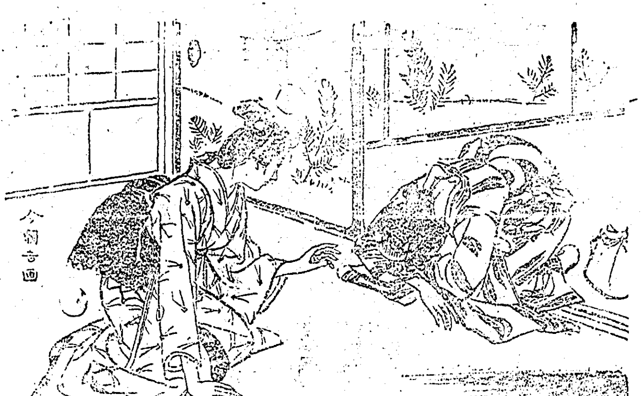
しくらめんを描く
伊藤寒山子

しくらめんおのがむきむき日に恥ぢらひ
しくらめんむらさきの莖花に堪えぬ
しくらめんまろ葉やさしき反り見せぬ
しくらめん春日みなぎり白をきはめ
しくらめん群れ立つ蕾みづみづし

講談 妖刀流轉（えうたうるてん） (50)
邑井貞吉演　佐々木今朝吉畫

身の浮む瀬（六）

元來この溜息なんてえものは餘りいい時には出ないもので、失望落膽心配煩悶身體の具合がよくないなどといふ時にはこいつが出る景氣のいいものぢやアありません。する事なす事トン〳〵拍子に巧く行つて商賣繁昌、お金は儲かる、望みは叶つた、名擧は上つた、世間からはちやほや引張り凧忙しくて仕樣がない、あゝなんてそんな時に出るものぢやあない


今朝吉畫

新七泣然して寢たり起きたり誠に勝れませんから弟思ひの兄喜平次も、兄嫁のおちかも困つた事だと氣をもんで居ります

此おちかが即ち西條彌之進の娘で氣立の優しい感心な婦人、しかも絶世美人と來て居ります、喜平次も評判の好い人物で實に似合の夫婦だ

するとおちかさんの處へ猫つて參りましたのが、おちかの實家西條彌之進方に使はれて居りました女中のおこよで、今年十八、色白で愛嬌のある美しい娘です、出て來たおちかの顏を見るや否や、おこよがわつと泣き出しました

それに突然西條彌之進から暇が出て、御主人は何處かへ立退いておしまひなすつた、下僕の市助は男のこと故何うなりとも身の振方をつけるだらうが、たゞこよはまだ若い女ですから差詰め何うしていゝやら途方に暮れ、扨こそおちかの處へ相談に來たので御座いますが、そこは女だからおちかの顏を見ると胸が一ぱいになつてわつと泣いて了つた

ち『おや、お前おこよぢや無いか、何うしたのだね』泣いてゐては解らない、ねえ實家のお父さんから、えお暇が出て、あゝさうかえ、お前も驚いたらうがに私の家でもお父さんから突然のお知らせ、實に吃驚して了つたのだよ、然しこれにはいろ〳〵と事情も有りの事に違ひない、それは追々にわかるだらうが、お前も急に御主人が無くなつてはお困りだらうね、本當にお察しするよ、だがお心配をおしでない、私から旦那樣へ申上げて何とか御心配を願つて上げる、まあ氣を大きく持つておゐで』

と慰めてくれたから、おこよも幾分か落つきまして

こ『まア有難う存じます、私は御新造さんも御存知の通り、早くから兩親に死別れまして寄る邊もない孤兒の身の上、西條樣へ御奉公に上りまして皆樣に可愛がつて頂き安心して居りましたのに、その御主人樣に離れましては本當に何うしてよろしいやら、路頭に迷ひます、何卒不憫と思召してお手元へお使ひ下さいまし』

と泣いて頼む。そこでこの郡奉行齋藤嘉平次の女房おちかは至つて情深い婦人ですから突然に主人を失ひ困つてゐるおこよを氣の毒に思ひまして、夫嘉平次にも勸め丁度手も足りない所ゆゑその儘おこよを女中として召使ふ事にした、おこよも愁眉を開きまして

こ『有難う存じます、御新造樣この御恩は忘れません』

と、これからおこよが御主人大切と働きましたが差當つての用事は嘉平次の弟新七の看病といつても前申上げる通りどつと寢込んでゐる譯ではない、誰にも話せぬ心配から病を痛め健康も勝れずぶら〳〵してゐるといふ病狀なのだが、おこよは忠々しくその介抱をしてゐる中にです、此處は細かい事を申上げるより大ていい御想像にお任せ致す方が早いかも知れません、このおこよから一つ間違ひが起るといふ話……

磐中考査問題 第二日

（2）

（第二校[illegible]）

二、左の語の假名を[illegible]さい
珍重　體裁　立往生

三、左の文を解釋しなさい
西方甞發して時局の圓滿な解決を計つてゐた

四、左の文の傍線のところを解釋しなさい
イ、王は間もなく健康を回復して、再び其の英姿を陣頭にあらはす事が出來れ
ロ、再び募集に着手して努力すること更に數年、効果空しからずして宿志の果さるゝも近きにあらんとす

五、左の文の片假名を漢字で書きなさい
エイセイのセッピをよくしてキケンな病氣をコンゼツし、イク萬のジニウゲウ者のケンカウをはかつた事や、ほとんどあらゆるブンメイのリキを運用して、山をくづし、地をうがち、河水をせき止めた事など、一として驚かねばならぬものは無い

算術科

(1) 次の式を計算せよ
52+{38+(69−51)−1}

(2) 2,1×9,7×5,4

(3) (3ヵ6分ノ5−2,4+1ヵ15分ノ7)÷1ヵ15分ノ148

(4) 次の括弧の内にある數の大小をいへ
(5分ノ4　8分ノ7　7分ノ6)

(5) 1邊が10メートルの正方形と直徑が10メートルの圓がある、周はどちらがどれだけ長いか

(6) 幾打かの鉛筆がある。これを11人の子供に1人に6本づゝ分けると6本餘る、鉛筆は幾打か

(7) 甲乙丙三つの分數の和は3である、乙と丙との和は1ヵ2分ノ1で甲と丙との和は1ヵ4分ノ3である、甲乙丙各何程か

(8) 人夫8人が毎日9時間働いて5日かゝる仕事を6人が毎日10時間働くと幾日で出來るか

(9) 杉苗450本を買つたが其の中1割2分は枯れ、3割は人に分けた、後に何本殘つて居るか

(10) 甲乙2人の持つて居る金は合はせて30圓14錢で乙の分は甲の分の1ヵ9分ノ4倍である、甲の所持金は幾らか

×　×

品評會一等賞
電話二六八番
平牛乳舍
平町・九品寺前

平募集事務所長招聘
一、事業擴充ノ爲募集事務所新設至急招聘
一、待遇ハ面談ノ上決定ス
一、希望者ハ四月五日マデニ履歴書ヲ左記へ送ラレタシ
郡山市清水臺二五
日華生命福島出張所
電 郡山 三五二番

自轉車、リヤカー
タイヤー。チユウブ
大特賣中
フタバ商會
平・新川町郵便局前

吸入用酸素
度量衡
モノサシ　マス　ハカリ
體温器　寒暖計
關内藥局
電話四〇番

呼吸疾患救濟の王……
陸海軍御用
帝國大學醫學部御用
官公立醫學専學校門御用
吸入用酸素
體温計（メートルグラス）
御用命次第迅速に御届け致します。
處方箋調劑所
平町古鍛治町縣社ノ下
阿康藥局
電話四四番
振替口座東京三〇〇五

メガネは正確にして廉價
最新式レンズ各國製
眼鏡
豐富に取揃へて御座います
（亂視用眼鏡即時調製）
根本時計店
平町二丁目　電話六〇七

メートル御使用家の福音
二割明るく二割お德な
新マツダランプを
お奬め致します!!。
目下懸賞券付賣出し中洩れなく粗景呈上
毎月一日 十五日 マツダランプ割引デー（サービス）
當日はマツダ眞空管も割引致します
日東商會
電話四二八

開院廣告
平病院
平町警察署側（電六四一番）
院長 醫學博士 鈴木定藏

内科	院長 醫學博士	鈴木定藏
小兒科	部長 醫學士	木下基一（近日着任）
内臓外科 一般外科 皮膚泌尿器科	副院長 醫學士	横山喜俊
産婦人科	部長 醫學士	池谷宗三郎
レントゲン科	部長 醫學士	横山喜俊
物理的療法科	技師	岡田重德
藥劑科	部長 藥劑師	吉本孝平

◎診療時間 毎日午前八時ヨリ午後九時迄（夜間診療ニ従事ス）
往診隨時（急患ハ此ノ限リニアラズ）
病室完備……入院隨時〔自炊ノ便アリ〕

夜間診療
内科　胃腸病科　花柳病科　性病科　皮膚科
專門
胃腸性病科 松村醫院
（平町南町 電一〇七番）
（見習看護婦募集）

診療科目
一、齒科一般
一、口腔外科
内郷村大字内町字小ノ出六四
（内郷第二小學校前）
日本大學齒科醫學士 齊藤定輔
齊藤齒科醫院
求ム 看護婦或ハ見習看護婦

肺病ロクマク
其徴候としては原因なくして肩がこるとか胸が痛むとか、寢汗が出るとか、微くて繼續する『セキ』をするとか、顏色が段々蒼白くなるとか、体重が月々著しく減ずるとか、晝より午後になると輕度の熱（脈數）以上續く場合感冒又ハ流行性感冒の後久しく疲勞不快の感覺を脱せざる場合には『ゼヒ』一二週間位服用して下さい、必ず御滿足を得る事と信じます、今迄に全快せられし御方は數多く御座います。
此藥は他の藥店にありません。
價一週間…三圓　二週間…五圓五十錢
ハイロクノール代理店
常磐線植田町
安田屋藥局
電話一〇三番

見事難關を突破して 中等生の誇りを獲得

地方試驗界の人氣を縱横斷して けふ三校合格者發表

地方に於ける中等學校入學試驗界の人氣を縱横斷して見ん事合格の榮冠をかち得た磐中、磐女五百の氏名は待望の今三十日相前後して發表され、平商はこれに先だつて昨夜發表した、永い間努力を拂つた血みどろな準備も其の効なく惜しくも來春の再起を待たねばならぬ子女の失望落膽は惻々同情の念を禁じ得ぬものがあるが、平常の勉強酬ひられて見事今日のゴールインをした少戰士の得意さを想ふ時そぞろに微笑ましいものがある

血の努力で購つた 白線二條の欣び

傷ましい落伍者百五十

磐中（考査番號順）

（一組）藥谷嘉信　高木康直　芳賀稔　矢野久治　高橋義男　樫村伊佐雄　朝口富助　吉田安人　高木弘明　入江義昌　鈴木壽三郎　阿部國博　鈴木斧吉　尾城義男　愛川健三　鈴木武雄　赤津邦衛　嶋崎忠好　遠藤三千雄　佐藤愼平　澤田治太郎　山崎博久　卷幡胖　嵯峨田俊二　渡邊靖　小林茂久　片岡孝之　新妻績　小磯元一　木田三良　大和田和夫　鈴木伍郎　櫛田郁夫　小野弘雄　岩堀勇　中川信一　高木信太郎　稲沼房雄　原雄一　横山榮一　赤津芳伸　水野敏夫　安齋太郎　長谷川一雄　木下正一三　片寄武夫　關谷光秀　牧野好夫　島田久義

（二組）反町秀雄　樋口芳夫　山形衛　小野邦雄　吉川慶　鈴木利長　渡邊三郎　小野重信　鈴木三夫　秋山馨　吉田邦男　高原正良　白鳥二郎　永山昌平　吉田博員　阿部滿　高木日出男　中山章　佐川英雄　加藤寛　齋藤晃一　小林忠義　諏訪拓治　櫻山俊也　味香宏　川上忠　青木榮　大森要　鈴木政章　大平政直　加納邦武　赤坂隆　木村重久　長谷川光作　富谷學　赤津晴治　鍋田三省　菅原誠一　小野壯　石川榮一　山崎泰正　浦山志介　梅原喜男　大平親　高橋喜政　水野榮三　遠藤鶴治　小國井邦雄　泉正　稲邊昇一

（三組）鈴木新次郎　蛭田浩　佐川保　村田賢德　松崎茂　遠藤順平　加藤俊雄　大平忠七郎　門馬克寛　小林美彰　馬目善三郎　渡邊磐吉　柴崎治　山崎寛　齋藤甲一　本多正行　大谷佐重　薄葉忠久　中田勝雄　大塚寛　鯨岡太　飯塚茂　吉田敬治　松原榮　芳賀茂平　小沼賞　高橋壽雄　小湊滿　出口英二　平井秀夫　廣木亨　橋本孫四郎　黑澤範雅　矢内浩二　比佐忠雄　渡邊秀國　藤田文朗　白石龍夫　川嶋正義　中澤幹太郎　木田勝郎　田村尚顯　新妻喜政　岡田孝平　大谷繁雄　吉川文夫　田口幸男　湖歌宗登　小野晃平

（四組）木村康　中島昌　矢吹廸雄　赤津邦三郎　堀越康平　宇佐神正文　鈴木高光　豊田聰明　志賀創　清水俊政　大和田正彥　鈴木秀太郎　鈴木健次　大谷國利　馬上滿　關原靖　新妻唯男　赤津力雄　根本誠　藥谷澄男　鈴木弘中　菊地晃雄　田名網康雄　吉田修三　橋本壽　新妻恭兵　鈴木宏男　田口賞　堀越政壽　佐藤孝　石井正男　蛭田久　矢部保　大平勝三　會田滿穗　大平喜平　押田廣文　鈴木滿男　相川一雄　片寄喜一　竹村弘　永野節　篠崎喜嵩　武田邦彦　松本英一　渡邊通　鈴木幸雄　渡邊尚　氏田精一　鈴木英夫　大平一守

（五組）阿部武　大津道夫　猪狩良英　小野榮　阿部淺香　中根衛　高橋政利　本多茂方　稲沼利亮　小野常二　渡邊義雄　長谷川光正　鈴木三雄　吉田本平　須田充　鈴木幸雄　佐藤孝敏　鴨幸雄　荒川透　古市盈永　永山德二　草野八郎　薄努　渡邊七郎　長瀬克慶　金成榮久　草野高濟　色川瑛　田村政雄　小松康俊　小泉宏和　金澤邦麿　沖野明夫　江名清明　山崎裕康　平山博　田中房次郎　門馬治夫　宮津光男　鈴木一好　今井速水　田子新太郎　小野寺輝夫　宮下義夫　小林守成　鈴木光夫　磯上剛　瀧内定　愛川廣慶　佐藤久安

朗かに笑む處女 櫻ケ丘の春温く

胸ときめかす新入生

磐女（受驗番號順）

（一の一）柴田勝江　梅田チエ　坂本マス子　亀山文子　山本喜代子　山野邊公子　赤津敏子　愛川ユキエ　鈴木敏子　高木雅江　舟生美和　山口トシ子　蛭田悦子　大嶺悦子　助川和子　芳賀ミサ子　安島歳子　和田久子　草野ノブ子　吉田ちゑ　野木啓子　管波京子　鈴木フミ子　吉田富子　相馬興子　鈴木キヨ　村田圭子　松崎千代子　市川秀子　今田美代子　齋藤まさ子　松本麹枝　宮澤チカ子　五十嵐夢子　大和田トヨエ　新妻ノリ子　齋藤友子　柳内茂枝　高木喜美子　高木喜久子　木田榮子　藤沼せつ　關根操　長瀬彰子　高崎喜代子　高木伊代子　友部宮子　管波アイ子　川又富美子　織田良子　吉田

（一ノ二）高萩竹子　シン　長瀬多美　髙橋蕊　渡邊マサ　雫石英子　早川和枝　鈴木キヌ子　高木ひで子　根本アッ子　面川タカ　佐藤トヨ　猪狩信子　五十嵐賀枝子　佐藤きよみ　篠山逢子　松崎喜江　渡邊奈賀子　大楢ヨシ子　八巻ツルヨ　有賀貞子　猪狩君枝　田中富美子　長谷川フミ　安齋喜代子　吉田信子　長瀬君子　小川キン子　鈴木蘭子　五十嵐總子　平井睦子　柴田離苦子　木田妻子　長塚初枝　藤岡美佐子　大塚芳子　波多野惠子　坂本郁子　四家節子　山内清子　片寄武子　作山ヨノ　松崎幸子　長谷川靜江　廣田ユキ　高木ヨネ　鷲クラ　小川ヨネ子　山本靜枝　野本輝子

（一ノ三）中山高子　菅波シヅエ　片寄久子　矢田部富子　青木美代子　吉田安子　三井敬子　飯士井タカ　坂本スミ子　千葉富子　松原ナカ　鈴木トシ子　矢野トミ子　菅波トヨ　松浦登志子　鈴木靜　石井ヨシ子　中村芳子　麻原晴子　海老原トシ子　片寄ヨネ　三川淑子　小野多代子　佐藤好子　草野森子　中島弘子　山野邊喜美　菊池美津子　木村照子　坂本テツ　猪狩英子　高木機惠子　黑木智子　齋藤カツ子　成瀬仁子　赤津キヌ子　久保木敏子　飯澤キヨ子　芳賀澄江　百澤英子　新妻淳　富田俊子　佐川行　横山明　根本八重子　佐藤タケ　青田光子　小泉由江　佐藤君子　金賀美津子

（一ノ四）佐藤トミ　金成ミツ　須藤允　熊澤美代子　水竹秀子　馬上カツ子　東條正子　橘咲　佐藤ミチ　金成榮子　岡田靜子　鈴木史子　菊江美和子　石井淺子　緒形トキ子　星モモ　須藤ミツ子　若松ヨシ子　園部住子　山野邊トミエ　遠藤泰代　芹澤馨子　堀眞喜子　荒川トヨ　原圭子　山崎初子　松崎郁子　箱崎律子　佐藤清子　原澄子　小山美佐子　桑原貞子　吉田滿　梅森道子　端山厚子　戸丸ミツ　駒木根百合子　大平民子　千葉怜子　野崎マス　服部セツ　眞木禮子　菅波オトミ　松崎喬子　豊島陽子　高木智惠子　小林愛子　佐伯アサ子　內藤チヱ子

（一の五）福島泰子　遠藤千代子　草野美津子　赤津眞志　小松イク子　古川芳子　遠藤ヤス　賀智惠子　阿部翠　岩間ミツエ　大平トヨ子　木村美惠子　堀越潮子　小野シナ　佐藤キミ　木村タカ　大和田キヨ子　村山吉子　高木ヤス子　井上苔子　上遠野芳子　成清百合子　芳賀豊子　吉川壽々子　鈴木チヨノ　勝美米子　小林八千代　長谷川純子　石和悦子　小林勝子　阿部君子　遠藤蓉子　倉岡美津子　伊東滿佐子　江尻久子　高木フミ　武田トシ子　遠藤トシ子　庄司キミ子　遠藤光子　五十嵐澄子　小幡トナ　片寄雪子　水野谷トミ　中野嘉鶴子　松本幸子　馬目輝子　平島勝榮　佐々木笑子

最難關を突破！

喜びの百十六名

平商（受驗番號順）

町井力　大樂好意　鈴木二郎　吉田政司　網掛久櫛田勝男　芳賀武義　打田磐雄　大原弘　高木文雄　馬目久夫　大平一　大井川孝平　宮本勝太郎　遠藤道夫　新妻秀夫　大和田收藏　佐藤克巳　新妻博　佐藤守　佐々木大三郎　佐藤光男　伊達祥一　虫本光男　中井孝範　佐々木音美　服部博　佐藤一　遠藤萬吉　橋本克己　晴山正美　千葉三好　下山田强兵　鷲松四郎　小宅瑞穗　中野珪治　薬谷嘉全　瀨下祐　佐藤正義　小林良吉　瀨戸豊　草野文勇　藤井德一　大和田東一　鷗令宣　高野時夫　齋藤縫　酒井辰之助　片寄勝美　坂本浩一　芳賀政雄　金賀誠　渡邊新一　猪狩哲夫　志田芳一　猪狩定雄　門馬政治　佐藤正子　大平智三　若松正好　渡邊明　德光久信　鈴木茂雄　渡邊聰意　川端一敏　佐々千代壽　佐藤清　大原厚　根本勳　山崎正和　坂本俊次　鈴木磐夫　松崎秀夫　齋藤正美　坂本幸一　山城昇　鈴木文吾　鈴木甲一　野田臣男　鈴木英藏　馬目欣之助　鈴木新太郎　飴岡光弘　金田操　長谷川利夫　小谷平四郎　八巻邦晴　吉田勇　鯨岡章　柴田登城之介　白土茂男　五十嵐敏　杉崎六郎　阿部幸雄　富永雄央　佐藤慶助　佐藤三郎　久野仙四郎　赤津光一　宿屋藏之介　二瓶英次　長谷川仁平　佐分利甲子郎　吉田傳　寺門武彦　舟生寛　根本健三　關內賢治　根本幸一郎　橋本清　佐藤秀夫　矢內喜悦　阿久津成正　熊谷千富　山野邊孝一　鈴木秀男

以上百十六名

小野君入營

平町鎌田町 小野照行君は來月一日輜重兵第二聯隊に入營のため明三十一日午前八時二十分平發で入營の途につく

貼り出しを待つて 本社前に人の山

朝來問合せの電話殺到

發表當日本社への電話殺到は毎年の例乍ら今回は從來よりも甚だしく昨二十九日夜から始まり、今三十日は午前七時と云ふに早くも問合せの第一ベルが鳴り出し引續き無數、多くは女の親で女學校關係が多いためか何れにせよ之所にも優しい母性愛が遺憾なく露呈して眞に涙ぐましい感を與へた人々の森めきを待つ處へ午前十時先づ磐女の分を貼り出すや『有つた』『無い！』悲喜交々の光景を展開し、一と騒ぎが濟んで午後一時近く磐中を發表するや之亦以前にも增した人の山に之の雜沓は夕刻まで續いた

公園賣店希望者殺到

來月一日抽籤で決定

町役場で受付けてゐた松ケ岡公園花時の臨時賣店希望者は締切り迄三十五名、指定は九名なので一日午後一時から抽籤で決定

郵便料金改正

四月一日より

手紙　四錢
葉書　二錢
往復葉書　四錢
封緘葉書　四錢

◇舊葉書は料額印面の下部に五厘切手を加貼して御使ひ下さい

平郵便局

漁夫溺死

小名濱町下町田中權次郎氏所有漁船第二福惠丸漁夫相馬郡中村町生れ三浦吉郎（二六）は二十八日正午頃江名町沖合五浬の處で鰯漁中誤つてワイヤー捲揚機に觸れ海中に轉落溺死

入り亂れて喧嘩

內郷の辻強盜の共犯で平署に擧げられた相馬郡中村町生れ前科二犯廣川治平（三二）は取調べの結果去る二十一日夜泥醉の上好間村三反田地内で通行人の舘山榮三郎（三五）と喧嘩となり驅けつけた彌次馬五名も加り相手の判らぬ喧嘩をして夫々一週間の傷を負つた事判明

村會

平窪村會を三十日午前九時から開き左記諸件を附議 十一年度歳入出追加更正豫算 十二年度區長並に區長代理推薦 十二年度村稅中課稅課率更正 寄附募集

鹿島村會、同日午前九時から左記諸件附議 區長 同代理者推薦 寄附採納報告 十一年度歳入出追加更正豫算 一時借入金

兵士壯行會

飯野村 森政一君外二名のため二十九日午前十時から小學校で壯行會、勿來町の壯行送別會を三十日午前九時より同町國玉神社々前

。。。。勿來町會招集 明卅一日招集、豫算更に闘正して ある

平町議坂本隆藏氏

明後一日葬儀執行

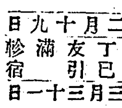
平町會議員坂本隆藏氏は兩三日來健康を害し靜養中昨二十九日午後から病狀俄かに革まり同四時長逝した、行年六十一、葬儀は明後一日午後二時出棺性源寺に於て執行すると 氏は少壯來地方公共に竭し町議たる事三期現に市制調査會部長たる外信用組合監事等の職に在り尚ほ芝山と號し樂石會、尚古會、觀世會、縣春蘭協會支部等の各會長として趣味の生活を續けてゐた溫厚の士で各方面からその他界を惜まれてゐる

萩原家慶事

あす後嗣の結婚式

昭和炭礦々主萩原申八氏長男節夫氏は松野尾繁雄氏夫妻の媒酌により水戸市出崎金治氏長女花子孃と婚約整ひ明卅一日縣社子鍬倉神社に於て結婚式を擧行翌一日午後三時住吉尾本店に於て披露の宴を張ると因に新郎は拓大出の秀才、新婦は縣立水戸高女出の才媛である

三十一日（小名濱測候所發表）
滿潮 前五、四〇 後七、三〇
干潮 前〇、〇〇 後〇、五五



舊二月十九日　水曜　丁巳　友引　滿　杉宿　新三月三十一日

諸判定應需 東京市本郷區湯島四丁目 高島易斷總本部 神誠

▲一白 目上の引立を受くればほうはいとの反目もあり▲二黑 德高ければ地位低くとも自然に見出ださる▲三碧 もと木に假ろうら木なし變轉するは悲多し▲四綠 きよはうへんな意とせず正義を守りて進むべし▲五黃 識者にたづねて進退を決するが安全の道なり▲六白 德を以て人を導き自ら名實現はるゝに至る▲七赤 內に在ては幸に惠まれ外に在ては禍を授る▲八白 志望心の儘に遂ぐべし開店起業建築等皆吉▲九紫 彼や是やと迷ひを生じ人のわなに陷り易き日

中等教科書
國定教科書
豫習各種辭書
各種全科るい
小學生ランドセル
カバン・手提類
和洋帳簿各種
特賣
パイロット萬年筆
景品付ネームス入
御入學、御卒業記念にアルバム
（友）マルトモ 柴田書店 平町四丁目 電話 一二四番 三三四番

値上通知

諸物價騰貴ニ付キ不本意乍ラ四月一日ヨリ左記ノ通リ工賃改正仕リ候也

一金貳圓也 一日工料

平町左官工友會
平町左官組合

和洋家具百貨出張 大賣出し

十ケ月拂 配達無料

期日 三月二十八日ヨリ 四月十日マデ

おなじみの丸和で御座います。是非御一覧の上御用命下さい。

■販賣方法■

▲御買上は何程にても一時に現品先渡し致します
▲拂込方法は最初御買入額の壹割金及び端金丈時いたゞきます。
▲殘額は九ケ月に割當て毎月一定期日に集金人を差出します。
但二拾圓未滿は月二圓宛申し受けます。
▲現金御買上の方は正札より五分引

場所…平町才槌小路大河內整骨院向

東京 丸和家具百貨店 出張部

父隆藏儀病氣中の處本日午後四時死去致候に付此段御通知申上候
追て葬送の儀は四月一日午後二時自宅出棺當町性源寺に於て佛式に依り相營み申可候

昭和十二年三月廿九日

男 坂本泰藏
仝 坂本昌藏
親戚總代 鈴木新右衛門
　諸橋久太郎
友人總代 青沼鋒太郎

御會葬御禮

三月三十日

湯本町 鯨岡恒德
外親戚一同

本組合監事坂本隆藏殿三月廿九日午後四時急逝被致候間此ノ段謹告仕リ候

昭和十二年三月三十日

有限責任信用組合 平庶民金庫

組合員各位